

がく
楽!
サイエンズ

2

海は広いな
楽しいな♪の巻



蒲郡情報ネットワークセンター
生命の海科学館 ☎66♦1717

動物の数えかたからわかること

さて皆さん、今年も待ちに待った磯遊びや海水浴のシーズンがやってきました!

海では、さまざまな動物たちを見かけます。皆さんは、それらの動物をどのように数えますか? 想像してみてください。足もとをすり抜けていく魚は、1匹2匹でしょうか。では、貝やウニ、イソギンチャク、ヒラムシ、クラゲなどは、どう数えるでしょう。ウニは1個2個、ヒラムシは1枚2枚でしょうか。

動物だって

「見かけによらない」のです

数え方にさまざまなバリエーションがあるということは、姿形やからだの仕組みが大きく違う、たくさんの動物がいるということに他なりません。海の動物たちには、いつも驚かされてばかりです。

過日、フジツボをじっくり観察する機会があり、「フジツボって動物なんだ」としみじみ実感しました。見ているうちに穴の部分のフタが細く開き、中から鳥の羽根のような肢あしが現れ、小さなエサを巻

き取ってサッと引っ込みます。その素早いこと! フジツボは貝の仲間と思われがちですが、実はエビやカニと同じ節足(せつそく)動物の仲間なのです。東北にはフジツボの仲間を食べる地方があり、エビやカニと同じく味噌汁のだしに使うそうです。



▲フジツボ
貝のなかまと思われがちですが、エビやカニと同じ節足動物です。

黒っぽい色で、のたりのたりと動くアメフラシ。何となくユーモラスで見えていて飽きません。ナマコやホヤよりも貝に近い動物だと知ったときは、少し意外な気がしたものです。アメフラシは貝類と同じ腹足綱(ふくそくこう)に分類される軟体動物です。同じ腹足綱には、カラフルで人気のあるウミウシや、北の海の小さな天使として人気のクリオネなどがいます。ちなみにナマコはウニやヒトデと同じ棘皮(きよくひ)動物、ホヤは魚や人間と同じ脊索(せきさく)動物の仲間です。そう、エビや

タコよりホヤのほうが人間に近い動物なのです。外見で人を判断してはいけないとよく言いますが、動物だって外見だけでは分からないなとつくづく実感させられます。



▲アメフラシ
背中のひらひらがチャーミング。見ているとなんだか和みます。

サカサクラゲというクラゲがいます。その名の通り逆さにひっくり返っていて、ふわふわ揺れています。上に向かって触手を伸ばしている姿を見ると、確かにクラゲとイソギンチャクは同じ仲間だと、納得がいきます。天地が逆になっているのは、からだの仕組みはほとんど同じなのです。両方とも刺すための刺胞(しほう)を持っているので、毒のあるものに向かって触れて痛い思いをした方もいらっしゃるでしょう。でも、刺胞をもたないクラゲもいます。クシクラゲやウリクラゲなど、有櫛(ゆうしつ)動物の仲間たちです。これらは「クラゲ」と名前